特集

ごみの先には人がいる

ごみは捨てて終わりではない

ある日突然、水道から水が出なくなってしまったら、停電して電気が一切使えなくなってしまったら、あなたはどうしますか？

ごみ収集も水道や電気と同じく、生活に必要不可欠なインフラです。ごみ収集が滞ると、放置されたごみが衛生面や街の景観に大きな影響を与えます。

よく「危険物の収集日は、いつですか？」とお問い合わせがありますが、実は本庄市に『危険物』というごみの区分はありません。詳しく聞いてみると、不燃ごみや有害ごみ、スプレー缶をまとめて指している事が多々あります。そして、実際にそれらの多くが、不燃ごみとしてまとめて出されてしまっています。

ごみが適切に分別されないと、思わぬ危険や日常生活への悪影響に発展する可能性があります。あなたが出したごみが原因で、収集ができなくなる日が来るかもしれません。

今回の特集では、私たちが出したごみの処理に関わる人たちを通して、分別の重要性を考えていきます。

★環境推進課☎25-1172

ごみ収集の流れと分別問題

正しくごみの分別が行われていないと、家から出たごみが処理されるまでにどのような問題が起きるのでしょうか

家庭

ごみの分別を誤ると…

ごみ収集所

・回収できず、自治会や他の利用者の迷惑に

収集・運搬

・ごみ収集車内で発火
・走行中は事故等の二次被害につながる恐れ

ごみ処理場

・処理施設で発火、火災で施設が使えなくなる

発火していないかモニターで確認

児玉郡市広域市町村圏組合立
小山川クリーンセンター
澤田　寿功 さん

「まあいいか」で出したごみが人の生命や生活を脅かす

―近年、全国のごみ処理施設では、持ち込まれたごみを原因とした発火・爆発事故が相次いでいます。また、施設や機械が損傷し、ごみ収集の延滞・停止を余儀なくされたり、復旧に多くの費用と時間がかかる等、人びとの生活に大きな影響が出ています。

ごみ処理の現場で何が起きているのか、小山川クリーンセンター（以下クリーンセンター）職員の澤田さんにお話を伺いました―

今、ごみ処理の現場で何が起きているのか

「近頃、ごみが原因の発火件数が飛躍的に増えています。その多くは、有害ごみとなるバッテリー（リチウムイオン電池等）が原因です」。クリーンセンターが建てられた25年前と今では時代が大きく変わり、排出されるごみや処理の状況も変わってきたといいます。

発火の怖さ

不燃ごみは細かく砕かれ、鉄とアルミを分別して回収、その他は可燃ごみとして処分されます。バッテリーの多くは、ごみを砕く破砕機で発火しています。発火時は3m近い火柱が上がることもあり、職員が直接消火します。消火には危険が伴い、無事に消火できても作業中はごみ処理が止まってしまいます。

そして、一番怖いのはバッテリーが破砕機で発火しないこと。「バッテリーは破砕後、時間が経ってから発火する事があります。破砕機では発火せず、可燃ごみのピット（ごみを一時的にためる場所）に運ばれてから発火すると、可燃ごみが燃料となって燃え広がり、火災につながる可能性もあります」。実際に火災により施設が使えなくなり、ごみの受け入れが約11か月停止、市民生活に大きな影響が出た自治体の例もあります。

私たちにできること

クリーンセンターでの発火件数は、確認できただけでも、令和4年度は125回、令和5年度は213回、今年度もすでに100回を超えています。

「処理の仕組上、ピットに行ってしまうと、取り除く事ができません。だから我々からお願いしたいのが、事前の分別なのです」。

クリーンセンターでもごみの内容物をチェックし、正しく分別しています。しかし、バッテリーの小型化が進み、見つけるのが困難であったり、中には隠して捨てているケースもあるそうです。

「分別は面倒な事かもしれません。ですが、『ごみが自分の目の前からなくなればそれで良い』という感覚が、多くの人の生活を脅かす火災の引き金となります。そのことは忘れないで欲しいのです」。

私たちが自分の生活を守るためにできること、それが分別です。まずは、今日出たごみの分別から取り組んでみませんか。

ごみは捨てて終わりではない

check 不燃ごみでは出さないで！

不燃ごみに有害ごみやスプレー缶が混ざり、発火するケースが相次いでいます。これらのごみは絶対に不燃ごみに入れず、適切な処理をお願いします。

スプレー缶

バッテリー
（充電式の製品）

詳しくは
市HPへ